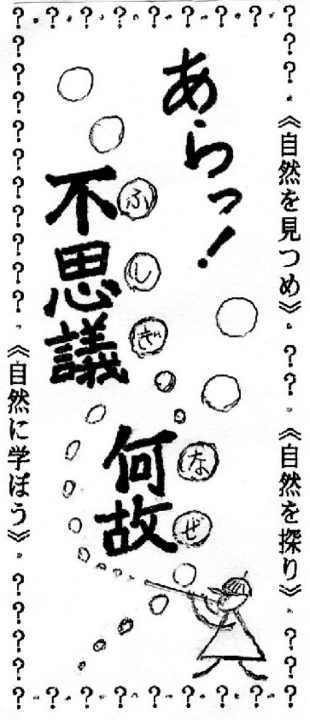


自然談議・科学談議



NO. 29 (通算29)

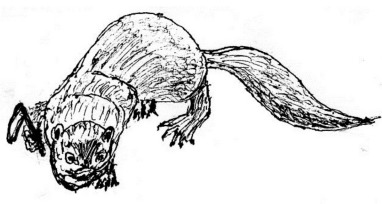
絵・文・題字 渋谷 一夫

「かまいたち」の謎

冷たいからっ風が吹く時期となった。乾いた北よりの風だ。こんな時は「かまいたち」が現れると昔の文献にある。一体、どんなイタチなのだろう。気になるので再度登場してもらおう。

妖怪か、怪物か

ある百科事典では、「小旋風に乗ってきて、人を傷つけ、また生き血を吸うと考えられる想像上の怪物」とある。別の百科事典では、「風傷の妖怪的表現。不意に皮膚



こんなイタチいるかな?

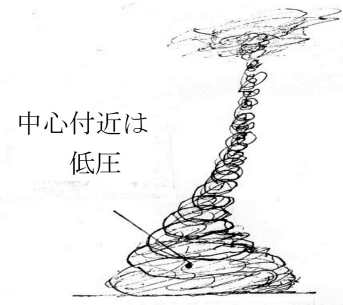
が裂けて出血すること、もしくは通り風の気にもふれたと覚えた跡に鎌形の傷があるのを鎌風といい、またその原因をイタチの一種の妖魔のわざとして鎌鼬(かまいたち)という」とある。即ち昔は、鎌を持ったイタチの仕業と考えたようである。この話は特に信越地方に多く、「越後の七不思議」の一つにもなっている。

一体「かまいたち」とは、本当の動物なのだろうか、気象現象なのだろうか。諸説あるが、本当のところ、科学的にも医学的にも、未だ解明されていないようだ。皆で考えてみようではないか。

「かまいたち」探し

この「かまいたち」という妖怪の姿・形は、まだ誰も見ていない。見えないのだ。それなのに、皮膚に切り傷を付けたら出血させたりするのだ。昔の文献から、「かまいたち」が出たときの様子をひもといてみよう。木枯らし吹く頃は、激しい

「つむじ風」がよく起こる。小旋風だ。



つむじ風は小さな竜巻

これに出会うと、転びもしないのに、また何かにつつきりもしないのに、突然切り傷ができて、出血してくるのだという。まるで、鎌で切られたような鋭い切り傷なので、「かまいたちの仕業」と呼ばれていたようだ。

だが、不思議なのは、深い切り傷の上の衣服には、なんの損傷もないのだという。一体、どんな仕業で傷が付けたのだだろう。不思議だ。

真空の仕業か?

強烈なつむじ風になると、中心部分は、瞬間的に真空状態になる。その真空部分が皮膚に当たると、皮膚の弱い部分が引き裂かれ出血するのだとの説がある。台風や竜巻も中心付近は、相対的な低圧だ。気象学的には、瞬間的な空気の圧力差で、皮膚の弱い部分が引き裂かれて出血するのではなからうかとの説もある。

また、医学的には、つむじ風のような風圧の変化や、地面空気などに起こる電圧の変化によるものではないかという説もある。強い電流を局部的に流す電気メスの原理に似ている。その謎は、まだ現在でも解けていない。やはり、イタチの仕業なのだろうか。話し合っしてほしい。